MINATO TOKYO

Bulletin みなとユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY／MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004／MITSUKO TAKAI PRES.
発行所／港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03（3434）2233 発行人／高井光子

2013 年 12 月 1 日発行　第 134 号

目　次

P 1　巻頭言「三無主義を考える」見上良也顧問	P 13 後半　「みなと区民まつり」参加
P 2－P 3 「東アジアの緊張と日本外交の課題」春名幹男氏	P 14 前半　事務局便り
P4－P 13「UNESCO ユースフォーラム in みなと 2013」	P 14 後半　編集後記

三無主義を考える

港ユネスコ協会 顧問　見上良也

現代は三無主義といわれる。無責任，無神経，無関心，か。それも若者だけでなく，60 代ぐらいの年齢層にまで広がっている様子が手にとるように見える。自身の欲望だけがあらわになっている。

TV で久しぶりに Audrey Hepburn の”Charade ”を観た。彼女の役柄は，何事にも関心を持ち，好奇心があふれていて，素早い行動で問題と向き合い，解決に導く。それが美しい表情の中で瞬時に変化をとげていく。彼女の役は、パリ・ユネスコ本部の仏英の同時通訳者をつとめているので，興味をそそわれた。

私自身の長年にわたる仕事は表現者を育てることだ。舞台，映画，TV，ラジオは音響芸術なくしては成り立たない。そこに生身の表現者が Story を編んでいく。演技者だ。彼らの育成には東西の演劇史と演技論が不可欠だが，紀元前 5，4 百年ソポクレスが実話に基いて書いたといわれる「オイディプス王」に始まり，シェイクスピア，ラシーヌ，モリエール，イプセンなどの作品から，日本の能狂言，歌舞伎など一通りの知識を基に，演技論に入る。音響芸術もコンサート，ステージ，映像などの表現技術へと進む。

これら古今東西の作品の中には複雑な人間模様はもとより，政治，経済，社会の様相が描かれ，今も昔と変わらぬ世界がそこにある。

小学校 5 年生で東京大空襲の直中で生きのびた経験を持つ私としては，戦争が頭を離れたことがない。今の中東の紛争からも目が離せない。

「未清算の過去の諸問題」というドイツ演劇の岩淵達治さんの論考がある。冒頭の無責任から類推して，戦争責任の問題を考えてみる。

ドイツが連合国の戦争裁判とは別に，ドイツ人の手で戦争裁判を行ったが，日本では戦争責任の追求はされなかった。かつて A 級戦犯として占領軍に逮捕された人物が首相にもなった。70 年に国連総会で成立し発効した「戦争犯罪および人道に反する罪に対する時効不適用に関する条約」に日本は批准していない，と理解している。

私たち日本人は律義で勤勉でと言われるが，大切な要点をおろそかにすることがある。人によって相違があろうけれど，面倒な事象を避けたいという気持ちはないか，と問いたい。何かが発生すれば、問題と向き合い，解決に取り組むこと。このことは今の近隣国との軋轢にしても確りと話しあい、行動することが必須だと強く思う。

遠因をたどれば三無主義はこんなところに起点があるのかも知れない。（2013.11.29）

2013 年度　第 2 回　国際理解講演会

東アジアの緊張 と 日本外交の課題

日時：2013 年 9 月 3 日（火）18：30～20：30
場所：港区立生涯学習センター　305 号室

講師 ： 春名　幹男氏　（早稲田大学大学院客員教授）

講師の春名氏は、「日本の外交安保体制は今、非常に厳しい状況に置かれています。中国と北朝鮮の挑戦に対して、有事を抑止する日米同盟体制が万全とは言えないからです。また、米中韓によって形成されようとしている東アジアの新しいパラダイムにも適応できていません。この変動にどう対応すべきでしょうか。」と、現在日本が直面している難しい問題をテーマに取り上げて、熱演して下さいました。

講師　プロフィル

1946 年生まれ。大阪外国語大学（現 大阪大学）卒業
1969 年共同通信社入社。NY 支局、ワシントン支局を経て、
1993～1996 年米ワシントン支局長。在米報道は計 12 年。
　論説副委員長、特別編集委員を経て、2007 年退社。
　退社後名古屋大学大学院教授。現在早稲田大学大学院客員教授。
受賞：1995 年ボーン・上田記念国際記者賞、
　　2004 年日米記者クラブ賞受賞
著書：「ヒバクシャ・イン USA」（岩波新書）
　　：「秘密のファイル―CIA の対日工作（共同通信社）　他多数
　　：**「米中冷戦と日本」（PHP 研究所）**

講師の春名氏は、共同通信の記者として長い NY とワシントン駐在経験と、氏のグローバルなネットワークに基づいて、外交の秘話、裏話を披露しながら、以下のような講演を行われた。

東アジアに緊張が広がる昨今であり、定員を超える大勢の出席者が来場された。そして、初めて耳にする話などに、驚きながら日本外交の課題に聞き入っておられた。
講演後、数多くの質問が出され、春名氏は一つ一つに丁寧に応対された。

普段接しているマスメディアでは知りえない外交情報の深読み、裏読みが出来たことで、出席者はこれまでよりも日本外交の課題が良く理解できたのではないかと思われる。

1. 安倍首相とオバマ大統領の関係が緊密でないので心配している。2012 年 12 月の衆議院総選挙で自民党が大勝し、安倍総裁が首相に内定したので、早速オバマ大統領に会談を申し入れたが、実現には時間がかかった。これはオバマ大統領が安倍首相に会いたくないという意思表示だったと言える。会っても極めて短時間で儀礼的なものだった。
　中国の習近平総書記がカリフォルニア州でオバマ大統領と長時間話し合いをしたことと対照的だ。 従軍慰安婦問題に関する発言などが影響しているとみている。

2. 尖閣諸島の扱いについて、日本政府はまずい対応をしてきている。石原都知事の挑発に乗った形で、野田首相が国有化宣言をしたが、アメリカ政府は、緊張を高めると反対していたことがわかった。
　戦時中のカイロ会談の際、ルーズベルト米大統領は当時の中国（中華民国）に沖縄（尖閣諸島）をやると 2 度以上にわたって言われたのだが、蒋介石総統は「米中共同管理なら」と答えて断った歴史もある。
　アメリカ政府の基本的立場は、領土主権争いには介入しないこと。 アメリカは尖閣についても、領有権争いの存在を認めているので、中国は強気な態度に出ていると言える。
3. アメリカ政府は日本の軍事力増強を望んでいない。 アメリカは、日米安保条約は日本の軍事力増強を抑える

「びんのふた」の効果を持つと考えている。最新鋭の戦闘機Ｆ－22 を日本に売らなかったことでも分かる。
安倍総理は集団的自衛権についての対応（憲法解釈）で日米関係の改善を図ろうとしているようだ。
これは憲法改正を当面は断念するということでもある。

4. 中国の軍事力増大に対しアメリカは懸念している。最も重大な問題は中国がアメリカと対等の戦略戦力を持つこと。 言い換えれば第２撃能力。地上配備の大陸間弾道ミサイル（ＩＣＢＭ）をすべて撃破されても、中国が米本土に到達する潜水艦発射弾道ミサイル（ＳＬＢＭ）を持てば、米本土に第 2 撃攻撃を仕掛けられる。中国は既に 1、2 隻のＳＬＢＭ搭載潜水艦を持っているが、射程が 7000 キロしかないため、東シナ海から太平洋に出て撃てば、米本土に到達する。
それを防ぐために尖閣、沖縄は軍事上極めて重要な位置にある。

5. オバマ大統領は北朝鮮との 6 カ国協議をまだ一度も開催しておらず、積極的に対北朝鮮外交に取り組んでいない。 アフガニスタンからも撤退することしか考えていない。 就任以来、大きい外交成果は１つもない。

6. キャロライン・ケネディ氏が駐日大使に就任することで日米関係の改善を期待したい。 彼女はリベラルな考えの持ち主で物事をはっきり発言する人だ。 オバマ大統領が言いにくいことを彼女なら言えるという得な人物だ。

7. アメリカではマイノリティの人口が増えている。 オバマ大統領は白人の 39%の支持で当選した。
対立候補のロムニー氏は白人票の 59%を取ったが落選した。
白人の人口は、1960 年には 85%だったが、年々減り続け、2000 年には 70%になった。 2010 年には 3 分の 2 以下になったとみられる。 マイノリティの中でもアジア系は教育レベルも収入も高く、力を増している。

質疑応答

(1) 日米安保条約が日米同盟と呼ばれるようになったのはいつか？
→ 1981 年鈴木首相、伊東外相時代に共同声明で初めて使った。伊東外相はこの問題で辞任した。
(2) アメリカのように日本も公文書が公開されているのか？
→ 日本も「外交史料館」で公開している。
(3) 日中融和のシナリオは？
→ 過去の歴史をすべて過去のものにするよう努力すべきだ。
(4) インターネットの出自は軍事からか？
→ アメリカ軍の軍事情報ネットワークを民間に払い下げたものだ。
(5) 安倍首相は戦後レジームからの脱却、と言っているが、、、
→ アメリカも日本が「集団的自衛権」を行使することを望んでいるが、安保条約の適用地域は「極東」とされている。日本は文化、教育、伝統などで、アメリカの持っていないことで実力を発揮すべきだ。歴史認識も重要だ。

感想

難しいテーマだったが、予備知識の無い聴衆にも理解しやすい説明をして頂きました。 日頃、接している日本のマスメディアでは知り得ない外交上の課題の本質を分かりやすく提示して頂きました。
国家間の外交、軍事の課題は専門家だけに任せておけば済む、という問題でなく、市民も関心を持ち、あるべき姿を求めて行かねばならないと感じました。

（国際学術文化委員会　　塩瀬　正明）

《講演内容での見解は、当協会の立場を表すものではありません。編集部》

主催：港ユネスコ協会　　協力：宇都宮ユネスコ協会

第３回　UNESCO・ユース・フォーラム in みなと 2013

《育てよう・繋げよう・平和の心――ユネスコ精神を・次世代に》

～～東日本大震災の復興を願って、声援を送りましょう！！～～

日時：2013 年 10 月 5 日(土)　13：00～16：30
会場：港区立男女平等参画センター（リーブラ）ホール 5 階

第 3 回目の今年は、パネリストには東京都内の一橋大学、日本大学、中央大学で学ぶ留学生と、宇都宮市に住む宇都宮大学と作新学院大学の留学生、合わせて 9 名の留学生さんに加わっていただき、出身国、日本滞在年数、専攻もそれぞれが異なり、一段と興味深いものになりました。

会場には、玉川大学、東海大学、中央大学、筑波大学、慶応大学などの学生さん、早稲田大学、立教大学、日本大学の留学生の皆さん、そして、会員、港区民など一般の方がたがご出席下さいました。開会前から会場では数か国語が飛び交い、幅広い年代の方の姿が見受けられます。定員 130 名のホールは満席です。

13：00　開会　　午後 1 時、開始

総合司会は、青年会員の佐藤修平君と、岩田麻衣さんが担当です。2 人は共に同じ大学の法学部 3 年生です。お二人のさわやかな司会によって、終始、和やかに進行しました。

プログラム

第 1 部　留学生による母国紹介（5 か国、各 10 分）
第 2 部　留学生 9 名によるパネル・トーク「日本と私、そして未来」
第 3 部　フロアーとパネリストとの Q&A
第 4 部　東日本大震災の復興を願って、皆さんで歌いましょう。

主催者の挨拶　まず、髙井光子会長からの開会挨拶です。

「平和の心―ユネスコ精神」を、これからの日本や世界を担う若い方がたへ繋げていくことは、私どもの大事な任務でありましょう。また、若い時代に、異なる国の方がたと直接に交流する体験は、視野を広げ、心や頭を柔軟にする機会となり、一生の大切な思い出となるに違いありません。

32 年前の創立後、青年会員が活発に活動していた時期が続いていました。が、時代が変わり、気がついてみれば、ユース活動委員会は休眠状態になっていました。

3 年半前から、ユース活動委員会の活動を再始動させたい、国際都市・港区に適した活動をしたいと模索し始めましたが、なかなか難しく進みませんでした。そこで、創設時からの理事であり、現在は宇都宮市住み、宇都宮ユネスコ協会会長・「いっくら国際文化交流協会」会長で、大勢の留学生から「お母さん」と慕われている長門芳子さんのお知恵とご協力をお借りすることで、突破口を見つけたいと考えました。

その結果、二つのユネスコ協会が共同の形で始めた事業の一つが「UNESCO ユース・フォーラム in みなと」です。過去 2 回は、宇都宮大学の留学生 10 数名にパネリストとして来ていただきました。「初めて新幹線に乗れる」、「日本の中心・国際都市・港区の皆さんに母国の紹介が出来る」と、快く協力して下さいました。新幹線を使えば 1 時間足らずの距離ですが、土地柄の異なるユネスコ協会が、連携して事業を行うことは、民間ユネスコ協会のあり方としても、貴重なモデルになるのではないか思います。

本日の催しが国境を越え、年代を越えて、将来へ、友好の輪が広がるきっかけとなるようにと願っております。

企画・協力者のことば　**長門芳子理事**

「UNESCO・ユース・フォーラム in みなと 2013」に宇都宮ユネスコ協会・青年部の留学生をご招待いただき、誠に有難うございます。

この企画案を提供し、留学生派遣協力するのは、今回で 3 回目となりました。上京のチャンスに恵まれない地方で学ぶ留学生たちは、貴重な経験ができると毎回喜んでいます。港区と宇都宮市を拠点に活動する国際 NGO の連携協力による協働・コラボレーションのモデル事業と存じ、港ユネスコ協会に深く感謝申し上げます。ユネスコ精神「平和の心」を次世代に繋げ、「新たな出会いの場・地球家族誕生の場」となりますことを願い、UNESCO・ユース・フォーラムのご盛会を心よりお祈り申し上げます。

第1部（13:15）5人の留学生による、母国紹介(5か国)

（1）アルメニア共和国　カリネさん　（大学経済学部研修生・国際交流基金フェローシップ招聘者）

人口300万人の、南コーカサスの小さい国で、四国の約1.6倍の面積で、カスピ海と黒海の間にあります。国全体が高地にあります 世界初のキリスト教国で、特徴的な教会が沢山存在します。チェスの強豪国です。アルメニアで発見された「ナリネ乳酸菌」の効用については世界で注目されています。有名な「剣の舞」はアルメニア人ハチャトリヤンが作曲しました。

（2）インドネシア共和国　スーザンさん　（大学院工学研究科地球環境デザイン学修士課程）

インドネシアの面積は日本の約5倍で、赤道をまたいでいます。人口2億3,700万人の88%がイスラム教徒ですが、イスラム教が国教ではありません。13,000の島から成る島国で、多民族国家です。今日は、ボルネオ島に住む、身体中に入れ墨をし、大きな耳飾りを付けるという珍しい伝統文化を守って暮らしている「ダヤッ族」について紹介します。

（3）ガボン共和国　マビクさん　（大学院工学研究科博士課程）

中央アフリカにある国で、西は大西洋に面しているので穏やかな温帯湿潤気候です。森林が85%を占め、動物、植物、資源が豊かな国です。人口は約150万人で、50以上の民族が住んでいます。1996年にガボンで最初の「文化の祭展」が、当時の文化大臣によって、ガボン内の民族間の文化交流を促進することを目的として始められたのですが、今日では科学や文化を披露する一大イベントとなりました。

（4）キルギス共和国　アセリさん　（大学院国際学研究科博士後期課程）

キルギス共和国は、中央アジアにあり、「シルクロードの十字路」と言われ、旧ソ連に属していました。厳しい自然の中で遊牧生活をしてきたキルギス人が住むユルタの中では「コムズ」によって奏でられる美しいメロディーが流れます。固有の伝統弦楽器「コムズ」は、キルギス人には大切なもので、どこの家にも飾られ、誰もが小さい頃から練習しています。日本の三味線と似ています。今日、民族衣装を着て、来場している長男ヌルメルは日本の小学校の1年生です。

（5）モンゴル国　ウンダラルさん　（大学院商学研究科修士課程）

日本では馬と草原というイメージが強いようですが、首都ウランバートル市は日々都市化が進み、車や大きな建物が多く、渋滞もひどい状態です。草原のゲルでも、ソーラーパネルを屋根に張って、電気を使って生活するようになっています。インターネットも携帯も普及し、バイクを使って牧畜をしている姿がよく見られます。地下鉱物資源が豊富なため、世界中の先進国から注目されており、今後10年で急速に成長する国の一つだと予想されています。

第2部（14：20）　パネル・トーク　**メイン・テーマ 《 日本と私・そして未来 》**

サブトピック ：「日本に留学した理由」、「留学の成果(自己評価、他の留学生との交流含む)」、「3.11　東日本大震災の時に感じたこと」、「将来の夢・日本と母国との交流」

コーディネーター：吉田一彦　宇都宮大学留学生・国際交流センター教授

パネリスト（9名）：母国紹介のカリネさん、スーザンさん、マビクさん、アセリさん、ウンダラルさん　と、

インドネシア共和国	インナさん　（大学院農学部農学研究科博士課程）
スリランカ民主社会主義共和国	ササンカさん　（工学部情報工学科4年）
大韓民国	ジャン・ヘジンさん　（法学部法律学科3年）
中華人民共和国	朱 麗麗さん　（大学院経営学部修士課程）

吉田先生ます、「日本に留学した理由」を一人ずつ話して下さい。

カリネさん（アルメニア）：日本語と日本の社会や経済に興味を持っているからです。今回3度目です。

スーザンさん（インドネシア）：日本のアニメや漫画に興味を持ったことがきっかけで、日本に関心をもち、日本で建築を勉強したいと思いました。

インナさん（インドネシア）：日本のアニメや漫画に惹かれ、東部の田舎出身ですが、奨学金を受ける機会に恵まれました。

マビクさん（ガボン）：発展した国への留学を希望し、日本語や日本の文化を学びたいと思いました。

朱さん（中国）：親戚が日本に住んでいたので、日本に興味をもち、自分の目で実際の日本を見たいと思いました。

アセリさん（キルギス）：日本語と、日本人の良い先生に出会い、勉強するうちに日本語が好きになり、日本語の先生になりました。もっと日本語を学び、文化を知りたいと思いました。

ウンダラルさん（モンゴル）：最初は両親から日本語を勉強するように勧められました。勉強し始めると、日本の文化や経営にも関心を持ち始めました。

ジャンさん（韓国）：日本と韓国の間で、知的財産の面での法的な紛争が増えています。この分野の法律を勉強して、これから日韓の間での紛争を平和的に解決できるようになりたいと思いました。

ササンカさん（スリランカ）：高校を卒業後、日本大使館で試験を受けて、国費留学生として日本に来ました。有名な「おしん」番組の印象を抱いて日本に来ましたが、全く違っていました。

吉田先生：滞在期間はそれぞれ違いますが、実際に留学してみてどうだったか、留学の評価を話して下さい。

カリネさん：社会保障について調べており、アルメニアに帰ってそれらをどう活かすかはまだこれからです。日本で学んだ大きな成果は「和の心」です。留学中は、教科書や論文、資料を読んで勉強する一方で、町を歩いたり、電車に乗ったり、買い物をしたり、日本人の暮らしぶりを見聞しながら、「和の心」を学んでいます。

スーザンさん：日本の建築は世界一素晴らしいと思います。建築についていろいろ学び、インドネシアにも地震や津波などに耐える建物を作りたいです。日本で学んだ建築物、工場などを建てられたらいいと思います。

インナさん：日本に来て 7 年になり、専門の学問、生活上のこと、考え方などいろいろと学んでいます。農学部で、果物を専門に研究しています。日本の農業は素晴らしいとの思いを深めています。学んだことを、自分の国にも役立てたいと思っています。

マビクさん：新しいものごとの行い方、考え方を学んでいます。日本人や他の国の留学生たちと知り合い、友達が大勢できました。お互いの文化を知り、交流することは素晴らしいことです。

朱 さん：8 年になりますが、最初はご飯も食べられなくて、毎日カップラーメンばかりを食べていて入院してしまいました。日本で学び、体験することは、すべて人生の宝物になると思います。

アセリさん：留学中、日本語とキルギス語の関係を研究していますが、帰国後キルギスの日本語教育にそれを活かし、また、言語としてのキルギス語の研究を深めたいと思っています。

ジャンさん：日本に来て 3 年目です。日本文化と、専攻である日本の法制度の 2 つの面で理解を深めています。

日本に住む 1 人の人間として、友達と話をしたり、食事をしたり、買い物をしたりしながら、「生」の日本、生きた日本文化を感じています。法律とは、その国の今までの歴史や文化、国民性などが溶け込んでいる遺産であるとするならば、日本の法律を勉強することは、日本への理解を深めることだと思います。日本での経験を活かして、平和な日韓関係を構築することに活かすことができればと願っています。

ウンダラルさん：留学で得たことは 3 つ、1）いろいろな国の留学生や日本人とのコミュニケーション能力を身に着けた。2）日常生活のすべてを自分ですることで人間として成長した。3）大学で専門について学びながら、日本人の考え方や、経営について知識を増やしています。

ササンカさん：来た時は日本語が全くわからなかった。1 年間日本語を勉強した後、特別試験を受けて、北海道の高専の 3 年生になった。雪も見たことのない暑い国から来たので生活に慣れるのさえ大変で、しかも、「国費留学生はクラスのトップ 5 人の中に入らなければならない」という厳しい条件があった。頑張った結果、大学に編入することができた。今になると、高専に入ったこと

は良かったと思う。同じクラスの生徒と朝８時から午後５時まで一緒に実験したりするので、友達との交流が濃く、日本語も上達し、漢字も読めるようになり、クラブ活動や、ボランティア活動にも参加できた。私は勉強して、技術者になることが目的です。

第３部　フロアーとの Ｑ ＆ Ａ

質問　**留学生の皆さんからみて、日本人学生は勉強していると思いますか？**

ササンカさん：私は日本語を１年間勉強しただけで、高専の３年生に入って、クラスの５番になれるということは、日本人学生はあまり真面目に勉強していないのではないかなと思います。　**～会場から大きな笑い声～**

ジャンさん：私のいる法学部は、厳しい受験戦争を勝ち抜いてきた学生さんたちだから、大学に残って遅くまで勉強している人が大勢います。周りの学生さんが勉強熱心なので、私も見習いたいと思っています。

ウンダラルさん：私のいる大学の学生さんもよく勉強していると思います。４階まである自習室で、終電車間際まで勉強している学生さんは多いし、土・日でも勉強に来ています。私も同じように勉強しようと思います。

アセリさん：キルギスの学生よりも勉強していると思います。しかし、授業中に質問されても、日本人学生は自分から積極的に手を上げて意見を言おうとしません。キルギスの学生は、皆の前で発表するのが好きなので、日本人は消極的な感じがします。

マビクさん：来日５年目ですが、最初の学年は夜８時まで勉強していましたが、だんだん年を経るに従って勉強時間が減っているように感じます。

質問　**日本に来て友達はできましたか？　帰国後も付き合いたいと思う人は何人位いますか？**

マビクさん：帰国後も付き合いたい人は２人います。農家の人と、車を扱う人です。

スーザンさん：私は勉強しながら、これからインドネシアへ赴任する日本人にインドネシア語を教えています。教えた日本人とは赴任後もずっと連絡を続けています。

インナさん：初めて日本の空港に着いて、何もわからず不安だった時、とても親切にしてくれた人がいました。何て日本人はやさしいのだろうと嬉しかったです。もし、連絡が取れるなら、あの人に会いたいなと思います。

アセリさん：日本に来て３年ですが、そんなにたくさんの友達はいません。

ジャンさん：日本人の９割は友達といえると思います。もっと仲良くなりたいと思える人は、まず、私を「国」で判断しない人で、私の人格を見てくれて、私の話を聞いてくれて、何故そのように考えるかを理解してくれる人です。もっと多くの人と仲良くなりたいと思っています。

ササンカさん：最初の１年間、外国人 80 人と日本語の勉強をしましたが、その間にみんなと友達になりました。高専に入って最初の１年間で友達は１人、２年目で２人、３年目で卒業する時には５名ぐらいしか友達ができませんでした。年の離れたおじいさん・おばあさん達とはすぐに仲良くなって、食事に招かれたり、自分の国の料理を食べてもらったり、大勢の方と仲良く付き合っています。しかし、同じ年の人と友達となるのは大変難しいです。話しかけてくれないとか、顔を見ると逃げられるなどの経験をしています。

吉田先生　**次のトピック「東日本大震災の時に感じたこと」に移ります。**
3.11 の、あの時、どこに居て、何をどのように知り、自分は何を感じ、何をしたかを、順に話して下さい。

カリネさん：アルメニアにいました。アルメニアにも 25 年前大地震があり地震の怖さは知っていますが、あの津波の力に驚きました。インターネットでは、被害を受けた人はみんな冷静に行動していたように見えました。日本人は外見では、あまり強そうには見えませんが、細くてなかなか折れない竹のような強さだと思います。

スーザンさん：日本にいて、建物がすごく揺れたので驚いて外へ飛び出しました。高校の時、故郷のスマトラ沖地震も経験し、２つの地震は、震度にはそれほど差がないのですが、被害はインドネシアの方がずっと大きかったし、日本人は地震の時にもパニックになりませんでした。インドネシアの人もこういういい点を学んでほしいと思いました。

インナさん：日本にいました。同じインドネシアでも東部出身なので、大きな地震は初めての経験でとても怖かったです。停電になり、夜は特に怖かった。こういう時にも、パニックにならずに、助け合っていることは素晴らしいと思いました。どこの国も見習うべきだと思います。

マビクさん：筑波へ観光に行き、橋の上で写真を撮っている時でした。橋がものすごく揺れたので、驚いて足を踏ん張っていました。余震が続き、電車が動かないので友達の家で泊まり、テレビを見てびっくりしました。それまでは日常生活では、日本人の気配りは感じていませんでしたが、「大丈夫か」と尋ねてくれたり、避難場所を教えてくれたり、水や食べ物を買いに行く時に日本人の車に乗せてもらったりしました。

朱 さん：宇都宮の自分の部屋にいました。大きな揺れにびっくりして外に逃げ出しました。停電したので、エアコンがつかず寒かったです。2 日目にテレビを見て、亡くなった人が多いので心が痛みました。中国の親から電話で帰国するように言われましたが、どうしても帰りたくなく、友達とずっと連絡を取り合っていたので絆が強くなりました。

アセリさん：こんな大きな地震は初めてなので怖かったです。その日は停電だったので、翌日テレビを見てびっくりしました。キルギスの政府から、キルギス人は帰国するように言われ、帰国しました。外国のマスメディアが大げさに伝えていたようで、空港では、「危ない国から帰ってきた」ということで、英雄のように扱われました。帰国した私たちは皆で記者会見を開き、「そんなに危険ではありません。事実とは違います。」と伝えました。

ウンダラルさん：モンゴルにいました。家族からは「日本に行っていなくてよかった」と言われました。日本に留学している友達や、親しい日本人の家族のことが心配だったので、毎日連絡を取って状況を聞いていました。

ジャンさん：4 月から日本に留学しようとする直前でした。韓国のテレビや新聞で大きく報道され、父母は大変心配して、「こんな時に、日本に勉強しに行く覚悟があるのか。」と聞かれました。私はこういう災害の時こそ、日本人と一緒になってやっていきたいと、日本留学の決心を固めました。日本に着いた後も余震が続いているので、びっくりしました。その時、日本人の学生たちが私を支えてくれたからこそ、今の私がいます。そういう日本人の優しさを、世界に伝えていきたいと思います。

ササンカさん：北海道にいて、震度 5 位だったので気にしていなかったのですが、1~2 時間後にスリランカの母から「大丈夫か」と電話が来ました。すぐインターネットで調べてみて、「これは大きな地震だ」と思いました。スリランカでも、ジャワ・スマトラ地震の時に津波の大きな被害を受けて、インドネシア人と同じ程大勢の人が亡くなりました。その時に私はボランティアをした経験があります。日本に住むスリランカ人同士の絆が強いので、自分たちも何かやりたいと話し、奨学金の中から寄付を集めました。また、福島へ行って、ボランティア活動をしました。日本の皆さんのお蔭で勉強しているのだから、自分の出来ることをして助けたいと思いました。

吉田先生 **3.11 は大きな爪痕、重大な影響を今も残している大きな問題で、今後も話し続けるべきトピックだと思います。会場からのコメントとか、質問をお受けしたいと思います。**

質問 **3.11 の時、日本の大学の 2 年生だった中国の留学生です。国の家族が心配するので、政府からの帰国チケットで帰国しました。しかし、やはり、日本で勉強を続けたいと思い、1 か月後、日本に戻る決心をしました。この決心をするには一人っ子の僕には大変なことでした。韓国のヘジンさんは、入学前だから、韓国の大学に進む選択肢もあったと思いますが、日本に来られたのはすごいと思います。その時の心境を教えて下さい。**

ジャンさん：家族や友人が大変心配しますので、日本に行くか止めるか、心境は複雑でした。具体的には、日本の「知的財産法」に大変興味を持っていましたので、やはり予定通り、日本に行って勉強したいと考えました。それは、こういう時に逃げていては日本で生きていけないし、逃げてはいけないと思いました。　大変な時だから、韓国と日本のお役に立てることをしたいという気持ちが強まりました。

吉田先生 **母国紹介で付け加えたいことがあれば話して下さい。**

アセリさん：にほんには、キルギスについての情報が少なく、知られていません。旧ソ連邦に属していたので、キルギス語が国語でロシア語が公用語です。多民族国家ですが、75%がキルギス系民族です。特長は、すべてにゆったりしていることだと言われています。

ウンダラルさん：モンゴルの夜空も空気もきれいですし、馬にも乗れますので、ぜひ訪ねて下さい。

ジャンさん：最近日韓の関係は、悪化する一方に思えます。政治的な問題はいろいろあると思いますが、個人と個人が、お互いに関心を持って、話あい、理解し合うならば、たとえ、問題の直接の解決にはならないとしても、解決する土台になると思います。法的紛争というのは、お互いが顔を真っ赤にして争うようなものですが、でも、そういう中でも、お互いに、韓国のことを話し、日本のことを話し合えるような架け橋のような存在となって、何かお役に立てれば嬉しいなと思います。

ササンカさん：国に関して言えば、スリランカはインドの南にあって、北海道の約 80%の大きさの島国です。紅茶が有名です。四季がなく、年間平均温度は 27 度です。スリランカに来る観光客で一番多いのは日本人です。

吉田先生　**では、「将来の夢、日本と母国との交流」、あるいは、メイン・テーマの「日本と私・そして未来」ということでもいいので、話して下さい。**

インナさん：インドネシアでは果物の品質はあまり重視されませんが、日本のように美味しい果物を食べてもらえるようになればと願っています。もちろん、今後も日本との交流を大切にして行きたいです。

マビクさん：今、飲み物に関する研究をしていますので将来、ガボンで美味しいジュースを作りたいと思います。いろいろな国の友だちを大勢つくって、ガボンのことを知ってもらいたいです。ガボンは資源が多いので、今までは、それに頼り過ぎていたと思います。これからは、農業や観光を促進すべきだと思います。国立公園が 13 か所もあるので、外国にもっと紹介して観光を盛んにしたらいいと思います。ガボン人が外国に留学して、外国の新しいことを学んで帰ってきても、学んだことを活かす場がなかなかありません。個人的には、植物を植え、果物を作る研究をしたら、国に役立つと思っています。

朱 さん：日本に 8 年いるので、日本の魅力、日本人の心の広さなどを知りました。日本か、中国の旅行会社に勤めて、日本のことを中国人に紹介し、また、日本人に中国へ観光に訪れてもらいたいです。仕事を通して、日本と中国の橋渡しをしたいと思っています。

ウンダラルさん：近い夢というか、目標としては、就活がうまくいって、来年 4 月までに内定すればと願っています。大きな目標は、いい人生を送りたいということ。日本で学んだ文化や学問を、日本とモンゴルの関係を良くすることに活かしたいです。

ジャンさん：日本で弁理士の資格を取って、知的財産法をめぐる日本と韓国の法的紛争を解決できるようになりたいという夢というか、目標を持っています。知的財産法の分野で、日韓が和解する方向に向けて働きかけたり、「喧嘩するよりも、こういう風に和解しましょうよ」と言ったりして、良い日韓関係を構築するのが私の最終的な目標です。個人的な面では、結婚し、子供に恵まれ、猫をいっぱい飼うという夢を持っていますし、お金をたくさん稼いで、きれいな服をいっぱい買いたいというような、普通の女の子の夢を持っています。

ササンカさん：目標は技術者になること。大きな目標は、日本とスリランカの関係を良くすることです。学んで、博士にまでなる。大学の教師になって、「スリランカはこういう点を発展させなければならない。」と教えられるようになりたい。留学のオリエンテーションの時、日本の大使館の人から「奨学金によって日本で学んだことは、スリランカに帰って活用するように」と言われましたが、これはどういう意味かちょっとわかりません。日本の皆さんのお蔭で勉強できたのだから、できれば、日本で、日本の大学で日本人に教えられたら、日本にも役に立つし、それはスリランカにも役に立つことになると思うのですが。

吉田先生　**留学生たちのこういう話を聞いて、どうでしょうか。会場からコメントなり質問をいただけますでしょうか。**

質問　**みなさんの日本語を聞いていて上手なのに驚きました。どうすれば、外国語である日本語が上手になれたのか、何かアドバイスなどがあれば教えて欲しい。**

マビクさん：一生懸命日本語を勉強して、日本人と交流したかったからです。

朱 さん：他の日本語の上手な留学生に勉強法を聞いたりしました。

ジャンさん：外国語に慣れるには、自分の一番興味を持っていること、好きなことから勉強したらいいのではないかと思います。私は小説を読むのが好きなので、日本文学だけでなく、日本語に翻訳された西洋文学、ロシア文学などを読みながら、こういう時にはこういう表現をするのか、という気付きがあれば頭に残ります。

ササンカさん：自分のわかる言葉で話しかけてみること。英語で話しかけると、日本人は「英語は話せません」と言って、恥ずかしがって逃げますが、積極的に話すことによって、だんだんわかってくると思います。

インナさん：日本語を勉強する時に難しいのは漢字です。だんだん漢字が難しくなってくると、嫌いになりましたが、嫌いになっても、同じ漢字を何回も何回も書いて覚えました。

スーザンさん：私はアニメが好きなので、日本のアニメの物語を理解するためには、日本語が上達しないと面白さがわかりません。アニメでも、ドラマでも、見ながら上達するのではないかと思います。

質問　**留学中に楽しかったこと、充実していると思ったこと、母国との共通点や違う点も教えてください。**

ウンダラルさん：充実していると感じるのは、アルバイトの時です。初めは心配でしたが、だんだんと先輩方に教えてもらいながら、接客したり、電話対応したり、レジを打ったりしながら、このお客さんのニーズは何だろうか、何を求めておられるのがわかるようになりました。また、日本語も上達したと思います。
モンゴルと日本の共通点は言語の文法と、人として両親を尊敬する気持ちだと思います。

ジャンさん：大学生活の中で充実感を感じるのは、勉強をしている時です。3年生になってからゼミの中で計画したり、皆で議論の場を広げたりしながら、日本社会の一員としての自覚を持つようになってきたと感じています。韓国と日本の共通点ですか？留学していると共通点よりも、違いの方がより見えてくるように思います。

ササンカさん：一人暮らしによって自分のことは自分で出来るようになりました。また、目標に向かっていろいろとチャレンジするようになりました。日本語ができるようになり、他の国の人たちとも交流して、世界が広がったと思います。両国の異なる点といえば、天候も食べ物も違います。スリランカでは辛い物を食べ、日本の料理はみんな甘いです。共通点と言えば、お茶をよく飲むことです。しかしスリランカ人はお砂糖をお茶の3分のＩ位まで入れて甘くして飲みますが、日本人はそのまま飲みます。同じでもあり、違いでもあると言えます。

朱 さん：今大学院の1年生で、経営を勉強していますが、将来は旅行会社に勤めたいと思っているので、歴史の本も読んでいます。時間があればボランティア活動や社会活動もしています。

マビクさん：日本に来てから、沢山のショックを受けました。日本人や他の国の留学生の考え方や生き方を知り、理解できるようになり、人を見る目ができたと思います。今は就活をしていますが、面接で質問されたら、「どの国の人とでも仲良く仕事ができます。」と答えています。

インナさん：すべて自分で生活しなければならないので、いろいろな面で成長したと思います。2つの国の同じことの一つは、インドネシア人もお米が好きなことです。私個人的には、日本のお米の方が好きです。

吉田先生　**時間になったので、このへんで終わりとさせていただきます。なかなか有意義な意見交換ができ、とてもよかったのではないかと思います。留学生の皆さん、会場の皆さん、ご協力どうも有難うございました。**

16：05　第４部　東日本大震災・復興を願って、みんなで歌いましょう

司会と、アコーディオン演奏　：　港ユネスコ協会　清水軍治理事
ピアノ伴奏　：　牧山まり子さん　　**コーラス協力**　：　童謡楽唱会

清水理事の楽しいリードによって、会場が一体となって、東日本大震災の被災者の方がたに「元気」を送りたいと、声を合わせて大声で歌いました。歌いながら、参加者の皆さんの心も解きほぐされたようです。

曲目　① ふるさと
②世界に一つだけの花
≪独唱：ウンダラルさん≫
③ 花は咲く
④ふるさとは今もかわらず
⑤幸せなら手をたたこう

きっと、この歌声は留学生の皆さんの、遠く離れた母国におられるご家族の皆さんの心にも、そして、3. 11 で被災された方々の心にも届いたのではないでしょうか。

16：30　エンディング

留学生のお礼のことば　：　留学生を代表して、アルメニア共和国のカリネさんが話されました。

本日は、「UNESCO ユース・フラーム in みなと」に参加するチャンスをいただき、大変嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちは留学中、日本について詳しく知ることができますが、自国についての紹介の機会は、非常に少ないと思います。

私たち留学生は、会場に参加されている多くの大学生やユネスコ関係者の皆さんを前に、緊張してドキドキしながら、日本語で、誇りを持って母国を紹介し、また、自分の意見を言うことができました。このプログラムは、私たちがお互いに異なる民族を知るための大切な機会です。違いを知り、認め合うことで私たちは前に進むことができます。本当に素晴らしい体験でした。私たちにこのような発表の場を設けてくださいました港ユネスコ協会会長を始め、準備して頂いた協会の関係者の皆様にお礼を申し上げます。

また、私たち地球家族のおかあさんである宇都宮の長門会長の活動や研修生･留学生への援助に対して、心から感謝申し上げます。皆様、本日は有難うございました。

閉会のことば　港ユネスコ協会副会長　　永野博

留学生の皆さんに心から有難うとお礼を申し上げたいという一言に尽きます。会場の皆さんも同じように感じておられるのではないかと思います。

吉田一彦先生、素晴らしいコーディネーター役、たいへん有難うございました。

私は 45 年前に留学した経験があり、今でも留学時代のことはいろいろよく覚えています。今日皆さんのお話を伺いながらなつかしく思い出していました。会場に大勢の日本人の学生さんや留学生の皆さんが来て下さっています。日本の学生さんには、短くてもいいですから、ぜひ留学していただきたいと思います。ステージ上の留学生の皆さんが話されていたようなことを実感できると思いますので、強くお勧めしたいと思います。

玉川大学ユネスコクラブの皆さん初め、多くの方にご協力になりました。ユネスコの精神は、「戦争は心の中で生れるものであるから、心の中に平和の砦を築こう」ということです。今日の催しはそれにぴったりだったと思います。こういう催しは港ユネスコ協会としてとてもいい活動だなと嬉しく思っています。ぜひ、続けていただきたいと思います。総合司会の佐藤修平さん、岩田麻衣さん、有難うございました。大勢の皆様のご協力のお蔭で、つつがなく終えることができました。

16：40　閉会

最後に、司会者から、「東日本大震災 子ども支援募金」へのご協力のお願いがあり、すべてのプログラムは無事、終了いたしました。

～～後日、留学生と関係大学生からいただいた感想文をご紹介します。～～

インドネシア共和国　：　インナ さん　　パネル・トークに参加させていただき、有難うございました。本当に楽しい時間でした。こういう機会はなかなかありません。他の国のことを知る機会になりましたが、自分の国についても調べる機会となり、よりよりよく知る機会にもなりました。

会場の大勢の参加者の皆さんからご意見とご質問をいただいて、「成程、そう言えばそういうことだった」とか、非常にいい対話・交流ができましたので、大変嬉しく思っています。同じアジアの国でも知らないことが沢山あり、日本そして他の国の方がたに、インドネシアについてより良く理解頂ければいいなと思っています。この機会をいただいたこと、本当に感謝しています。

インドネシア共和国 ： スーザンさん　多くの人が私たち留学生の日本での生活等について積極的に質問してくれることに驚き、皆さんが興味を持ってくれることがとても嬉しかったです。また、他の留学生の意見を聞き、日本での留学生活を知ることができました。母国紹介を聞いて新しい知識になりました。本当はスタッフの学生の皆さんや聞きに来た学生たちともっとお話をしたかったのですが、時間があまりなくてできませんでした。とても楽しい１日を過ごせました。ありがとうございました。

ガボン共和国 ： マビクさん　話す機会を与えていただいてありがとうございました。インドネシアなど他の国についても、知ることができました。他の留学生が、日本で同じような、また異なった経験をしていることを耳にできてよかったです。日本についても勉強になりましたし、いろいろな面で、経験を深めることができました。こういうイベントを続けることを祈っております。ありがとうございます！

キルギス共和国 ：アセリさん　今年の参加で３回目になりました。前回と同様小学校１年生の息子ヌルボルにとっても、私自身にとってもかけがえのない思い出の一つとなりました。会場には大勢の皆さんが参加してくださっていたので、「私たち留学生の声を大勢の皆さんに届けるとことができる。」という思いが、私たちをより元気にしてくれました。また、いろいろな世代の日本人と出会える場としてもよいチャンスだと思います。

毎回、この国際交流の場で経験していること、学んでいることはたくさんあって、貴重な体験になっています。最後になりますが、参加のチャンスをくださった会長の高井様と長門様を初め、主催者の方々に心より感謝いたします。宇都宮から新幹線での上京できることにも、素敵な写真もありがとうございました。

スリランカ民主社会主義共和国 ： ササンカさん　「母国で学べない新しい技術を身につけ、帰国する」という目標を持って日本に来た私は、ずっと勉強に集中していた。勉強だけでは日本の文化や習慣を学ぶことはできないとわかり、市民と一緒にボランティア活動や交流会などの社会活動に参加するようになった。北海道にいた時、いろいろな社会活動に参加することで、日本人の友達ができたし、日本の習慣を学ぶことができた。大学に入ってからこのようなチャンスは少なかった。でも、宇都宮ユネスコ協会の長門芳子会長からの紹介で、また、市民との交流ができるようになった。今回参加することができたので、港ユネスコ協会の人たちとも仲良くなった。同じ大学の留学生、他大学の留学生、一般市民、日本人学生と話すことができ、とても楽しいイベントだった。皆の前で自分の経験、意見を話すことを初めて経験した。今回、参加したことで私の世界を広げることができ、とてもいい経験になった。お世話して下さった皆さん、どうもありがとうございました。

中華人民共和国 ： 朱 さん　招待していただきありがとうございました。緊張しながら参加させていただきました。私にとって初めての貴重な経験で、楽しかったです。朝早く新幹線に乗って上京しました。来日して８年になりますが、初めて新幹線に乗り、東京まで 50 分、速さときれいな車内に驚きました。

一緒に参加した他の大学の留学生とも交流ができ、モンゴルやアルメニア・キルギス・ガボンなどの文化と人々の生活を勉強しました。私のいる大学では、このようなチャンスはなかったので、私にとって、すごく刺激を受け勉強になりました。国費留学生が多くて、全員素晴らしい人たちで、自分がちょっと恥ずかしくなりました。私は、日本滞在が１番長いのに、日本語があまり上手ではないからです。これから、もっともっと勉強しないといけないと思い、これから頑張りたいと思います。　あっという間の１日でしたが、すごく勉強になり、楽しかったです。招待して下さった港ユネスコ協会のみなさま、どうも有難うございました。

モンゴル国 ： ウンダラルさん　参加できたことを大変嬉しく思います。このような素晴らしい機会を与えて下さった宇都宮ユネスコ協会・「いっくら国際文化交流協会」の会長、港ユネスコ協会会長と、港ユネスコ協会の皆様に心より感謝をいたします。半日という短い時間でしたが、一緒に参加した留学生たちと仲良くなり、協会の皆様と沢山お話できました。ご来場いただいた多くの皆様に母国を紹介することができたこと、日本での生活や自分の将来についても率直に語り合えたことは、とても楽しくて、良い思い出になりました。貴重な経験、素敵な思い出、どうも有難うございました。今年の経験を活かして来年も大勢の方と交流できればと思っております。

総合司会者 ： 岩田麻衣さん　素晴らしい UNESCO・ユース・フォーラムに司会者として携わることができまして光栄に思います。祖国を離れ不安な気持ちを感じながらも、ご自身の目標に向かって邁進しておられるご様子が、留学生の方がたのお言葉一つ一つから伝わってきて、大変感銘を受けました。また、学校・大学での過ごし方やアルバイトについてなど、留学生の皆さんの普段の生活についてのお話を伺えて、留学生の方がたをより身近に感じることが出来ました。このような素敵な催しになりましたのも、留学生の皆様や両ユネスコ協会の皆様を始めとする大勢の皆様の綿密なご準備があったからこそと存じます。本当に有難うございました。

総合司会者 ： 佐藤修平さん　始めて司会者として参加させていただき、とても有意義な時間が過ごせました。自分自身がフランス留学していた時の事を思い出しながら、留学生の方々の話を聞いて、うなづき共感すると同時に懐かしい気持ちになりました。留学生一人一人の皆さんがそれぞれに面白い話をしていたので、パネル・トークのところでは、会場のみなさんにも笑いが起こったりして、とてもいい雰囲気だったと思います。またこういった機会が増えていくといいなと思います。

大学ユネスコクラブ ： 望月美里さん　留学生の方々から、母国や日本での生活の様子について詳しく聞けるような機会が普段あまりないので、とても良い機会でした。日本のことを快く思ってくださる留学生がいて、感激しました。また、テーマごとに留学生が話していく場面では、流暢な日本語で積極的に話されており、自分も見習わなければと痛感しました。このような交流会にお招きいただき、本当にありがとうございました。ぜひ次回も参加したいと思います。

この催しはケーブルテレビの「港区広報トピックス」で, 11 月 1 日から 10 日間放映されました。
以下は、番組の中でインタビューを受けた参加者３名学生さんの声です。

＊大学で異文化交流を目指した活動を行っている。留学生の皆さんがそれぞれ充実した生活を送っている様子を聞いて、自分も外国へ留学したくなった。（男子・日本人学生）
＊私も留学生なので共感するところが多かった。他の留学生の話が聞けるいい機会だった。（女子・留学生）
＊留学生として同じように感じるところと、違うところがあるので、それがとても面白かった。（男子・留学生）

（担当：ユース活動委員会　　写真協力：坂下采子さん　　まとめ：会長　高井光子）

「みなと区民まつり」に参加して

今年も秋晴れの下、恒例の「2013　第 32 回　みなと区民まつり」が 10 月 12（土）・13（日）、芝公園一帯で催されました。MUA は、「みなと区民祭り」の初回より参加していますので、今年は 32 年目の参加となります。

テントの場所は、毎年同じブランコのそばです。昨年同様アクセサリーや袋物等のミニチャリティーバザー（会員と一般のご寄付による物）とお抹茶体験（一服 200 円）を「東日本大震災子ども支援」の募金活動として、代金は募金箱に直接入れて頂くようにしたことで、チャリティーバザーの主旨が一般の方にも理解して頂けたのではないかと思います。

10月中旬と言うのに日差しが強く、午前中のMUAのテントは、全体が太陽に照らされ、バザーの品物が熱くなってしまいました。テントに立ち寄られる方がたは「東日本大震災子ども支援」のお役に立つならと、品物を吟味しながら何個も買われる方も多く、また、会話をしながらテントの中での各委員会の活動紹介パネル展示を見て、活動の話を聞かれ、パンフレットなど持って帰られる方もおられました。

一つ、嬉しいことがありました。MUA のテントに何十年ぶりだという母子が来られ、「私は学生の時、港ユネスコのユース活動に関わっていました。結婚後家族でロンドンに長く滞在していましたが、今度は、娘が国際的な関わりのあるボランティア活動をしたいと言っています」とおっしゃいました。高井会長がユース委員会の説明に対応して下さいました。親子二代にわたって MUA に参加して頂けたらとてもハッピーです。

一日目の午後に港区区長さんが各テントを廻られ、会長を始め会員で港区長さんを囲み記念撮影。二日目も更なる秋晴れに恵まれ、午前 10 時から午後 4 時まで、会員も大勢手伝いに来て下さり、バザーは楽しく成功裏に終わりました。会員の皆様、そしてお抹茶に協力して下さった皆様、お疲れ様でした、有難うございました。

（区民まつり特別委員会常任理事　渡部俊子）

フィリッピン台風 30 号被害・支援　緊急募金のお願い

去る 11 月 8 日、過去最大級といわれる台風 30 号がフィリッピンを直撃し、中部を中心に、甚大な被害が発生しています。特に被害の大きいレイテ島では、一面が瓦礫に姿を変え、今も、食糧、水、電気、医薬品など、何もかも足りない状況が続いています。被害は広域にわたり、迅速な支援が必要とされています。

港ユネスコ協会でも緊急に募金活動を行い、支援したいと存じます。郵便振込み用紙を送付していますので、ご協力下さいますよう、お願い申し上げます。　（発起人：永井美智子、平方一代、高井光子）

事 務 局 便 り

【ようこそ　新入会員】 個人会員：坂下 妥子さん　　賛助会員：樫本 桂三さん
青年会員：佐藤 修平さん

【今後の行事予定】　（詳細は別途、チラシやホームページでご案内いたします）

☆1 月 25 日（土）13:30～16:00 ユースと外国人のための抹茶教室会場：港区立生涯学習センター203 号室
☆1 月 26 日（日）12:00～14:30　MUA 会員懇親新年会　レストラン「グリフォン」
☆ 1 月 7 日～3 月 25 日　英会話中級クラス　毎火曜日　18：30～20：30、コース全 12 回
☆1 月 8 日～3 月 26 日　英会話初級クラス　毎水曜日　18：30～20：30、コース全 12 回
英会話初級・中級クラスとも講師はマーク・マードック先生

【ご寄付、ご寄贈品などへの、ご協力ありがとうございました】

（A）日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援募金（奨学支援金として）
☆9 月 3 日（火）　第 2 回国際理解講演会会場での募金　3,300 円
☆10 月 5 日（土）　UNESCO・ユース・フォーラムでの募金　9,900 円
☆10 月 13 日（日）　区民まつりでのバザー　22,990 円　同 抹茶体験　2,313 円

(B) ミンダナオ子ども図書館への寄付金と寄贈品】
寄贈品：Ｔシャツ、スラックス、ズック靴、袋物など合計 103 点。　（10 月 10 日発送済み。）
寄贈者：今村孝子様、奥村和子様、葛西章江様、鈴木明美様、高井光子様、富田晴雄様,
永井美智子様、渡部俊子様　寄付：5,000 円（送料分として）　高井光子様

（C）フィリッピン・レイテ島の台風被害への緊急支援募金　11 月 21 日（木）理事会で 15,000 円

【ご協力のお願い】

＊ミンダナオ子ども図書館への寄贈品（衣料品など：新品・中古品[洗濯済]　除・毛織物）。事務局まで。

港ユネスコ協会事務局　（火～金　10:30～17:30）

〒105-0004　東京都港区新橋 3-16-3　TEL 03(3434)2300　TEL・FAX 03(3434)2233
Ｅメール：info@minatounesco.jp　ウェブサイト：http://minato-unesco.jp

■編集後記■

◆ 今年は秋の風情を感じられぬままに、夏から一気に冬になってしまった感じがする。台風による被害も我が国に止まらず甚大であった。地球温暖化の影響との声も聞かれる。温暖化緩和には生活の簡素化も求められるのであろう。自分でも心するように努めてはいるが、極めて高いハードルであることは間違いない。冬のとば口で改めて考えざるを得ない。（須田康司）　◆ 先日、岡倉天心を描いた映画を観てきた。脱亜入欧という大きな時代の流れの中、廃仏毀釈の下で寺院や仏像が焼失していくのを嘆き、日本独自の文化に誇りをもつことの重要性を訴え、その維持・発展、国際的発信に尽くした型破りな人物像が伝わってきた。日頃、今日の日本には独立自尊の精神や覇気に欠けるところがあると感じているので、一服の清涼剤をもらった気分になった。（棚橋征一）　◆ ブレティン英文版の翻訳に初めて参加しましたが、英訳は楽しくて有意義でした。また、最近、港区の市民大学で、アメリカの大学の学生の発表を聞いたのですが、世界中が文字通り一つになっていく時代だと思いました。郷里（静岡）へ最近行った時のことです。滞在しているホテルの人やら、伊豆の大仁農場のスタッフと心の交流ができて嬉しく、色々なことのあった郷里が（そこに住む、ゆかりのある人々も）幸せになるように祈りました。（永倉知子）　◆ 12 月「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されます。和食が、洋風化と簡便化によって、日常の家庭料理から消え始めたので、再び取り戻そうという動きだといいます。先日次々と明らかになった食材偽装問題は、簡便さによって味覚が鈍っている日本人の舌や、心理を上手に利用したものだとの意見がありました。気が付けば、「チンする」だけですむ加工食品や出来合い品を多用している自分に、あらためて、あ然としています。（高井光子）